

令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立鬼怒中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 166人

② 数学 166人

③ 理科 166人

5 留意事項

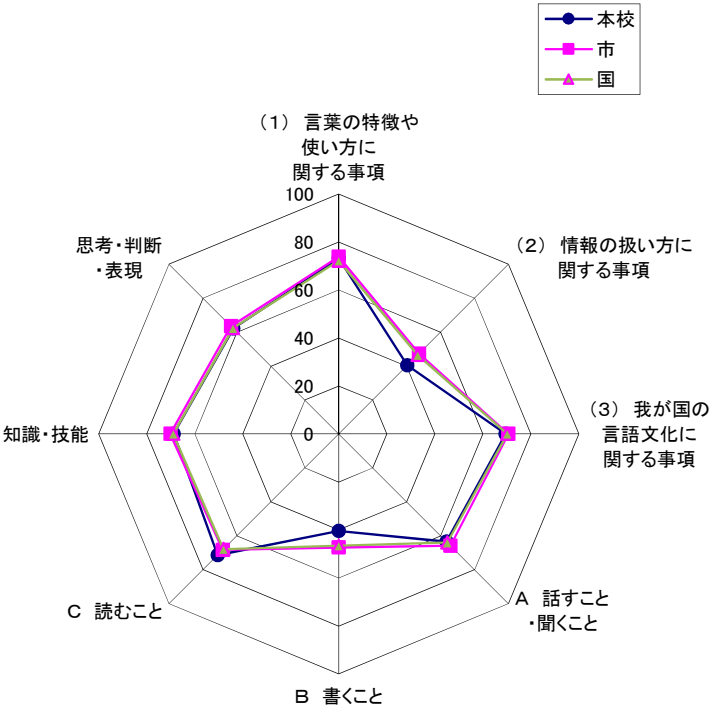
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立鬼怒中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	73.2	73.8	72.2
	(2) 情報の扱いに関する事項	40.4	47.3	46.5
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	69.5	70.7	70.2
	A 話すこと・聞くこと	63.5	65.9	63.9
	B 書くこと	40.4	47.3	46.5
	C 読むこと	71.4	68.3	67.9
観点	知識・技能	68.8	70.2	69.0
	思考・判断・表現	62.2	63.6	62.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

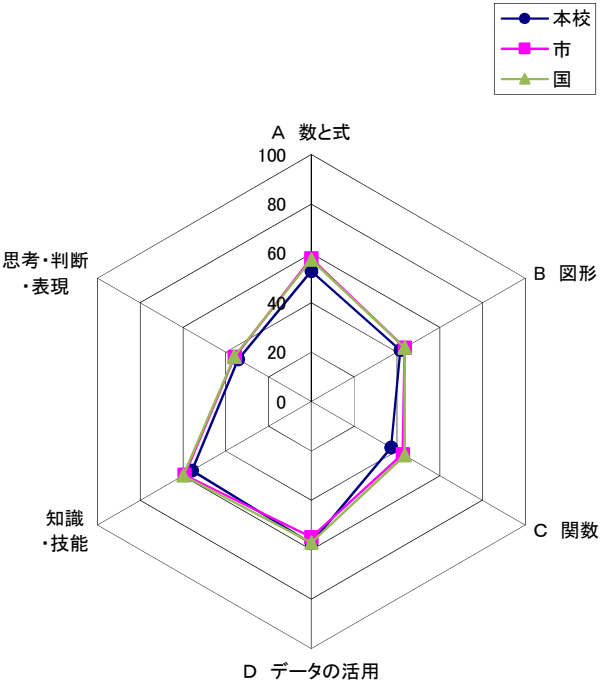
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使いに関する事項	○●品詞や漢字の書き取りに関する問題では、栃木県や全国の平均と比較すると若干低いものの平均正答率は8割前後である。 ○●表現技法(「比喻法」など)に関する問題の平均正答率は栃木県や全国の平均と比較すると7～8ポイント程度高いが、それでも6割程度で課題が見られる。	・漢字や文法に関しては、生徒の意欲を引き出す、より効果的な学習を行う。 ・これまでも詩や短歌・俳句などの単元で繰り返し指導してきた「表現技法」であるが、今後の詩や和歌などの単元でも根気強く復習を取り入れる。
(2) 情報の扱いに関する事項	●平均正答率が5割に届かないだけでなく、栃木県の平均と比較して7ポイント程度低い。正しい根拠に基づいて、主張が明確に伝わる分かりやすい文章を書くことに課題が見られる。	・正しい根拠とはどのようなものか、主張と根拠との結びつきは適切かを考えさせながら文章を書く学習活動を行う。 ・自分の主張の説得力を高めるために、資料を適切に活用して文章を書く指導を行う。 ・朝の活動で実施している「新聞記事を活用した学習活動」を通して情報活用の力を身に付けさせる。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	○漢字の行書の読みやすい書き方について理解する問題についての平均正答率は9割を超え、栃木県の平均正答率と比較しても2.5ポイント高い。 ●行書の特徴を理解する問題についての本校の平均正答率は4割に届かず、栃木県の平均と比較しても5ポイント以上低い。	・様々な部首についてその行書体を取り上げ、字体の変化やその特徴について理解を深めさせる。また、行書体に関する知識を活用した学習を実践し、生活に応用できるようにする。
A 話すこと・聞くこと	○●論理の展開などに注意して聞く問題では、平均正答率は7割に届かなかったものの、栃木県や全国の平均を上回っていた。 ●表現を工夫して自分の考えが伝わるように話すことについては、平均正答率が6割に届かず、課題が見られる。	・根拠をもとに考えを述べるだけでなく、根拠が妥当であるか検討させたり、聞き手に効果的に伝わるかを考えさせたりする学習に力を入れる。
B 書くこと	●平均正答率が5割に届かないだけでなく、栃木県の平均と比較して7ポイント程度低い。正しい根拠に基づいて、主張が明確に伝わる分かりやすい文章を書くことに課題が見られる。	・正しい根拠とはどのようなものか、主張と根拠との結びつきは適切かを考えさせながら文章を書く学習活動を行う。 ・自分の主張の説得力を高めるために、資料を適切に活用して文章を書く指導を行う。
C 読むこと	○文学的文章の理解に関する問題の平均正答率は、栃木県や全国の平均と比較して3～4ポイント程度高い。 ●表現をもとに登場人物の心情や場面の展開を捉える問題については、平均正答率が7割に届かなかった。	・文学的文章を扱う学習では、登場人物の言動から心情を捉える活動を様々な手法で実践し、生徒の興味・関心を高める。ひいては文学の面白さに気づかせ、読書意欲を喚起したい。

宇都宮市立鬼怒中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と式	52.8	58.0	57.4
	B 図形	41.6	43.6	43.6
	C 関数	37.3	42.7	43.6
	D データの活用	57.4	54.9	57.1
観点	知識・技能	55.8	59.3	59.9
	思考・判断・表現	34.2	35.9	36.2
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

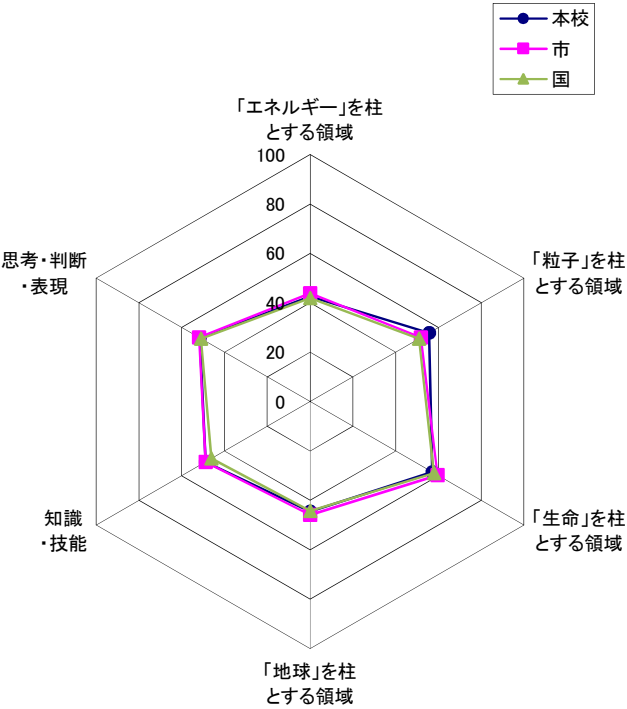
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と式	平均正答率は市の平均を下回っている。 ○差が4である2つの偶数の和が、4の倍数になることの説明を完成する問題がよくできている。式を(4×整数)の形に変形することが身に付いている生徒が多いと考えられる。 ●ある偶数との和が4の倍数になる数について、予想した事柄を表現するという問題に課題が見られる。	・今後も、計算問題についてはプリントを配布するなどして、なるべく多くの問題を解いて、慣れさせるようにする。 ・左記に書いた問題では、式の変形まではできるが、その意味を読み取ったり、事柄が成り立つ理由を説明するまでには到達していない生徒が多いと考えられる。授業ではただ解くという技術面だけではなく、なぜそうなるかという設問を増やすなどして、より深く考えられるようにする。
B 図形	平均正答率は市の平均を下回っている。 ○ある予想がいつでも成り立つかどうかを示すことについて、正しく述べたものを選ぶ問題(反例の意味を理解しているかの問題)がよくできている。 ○角度の和が30°になる理由を、筋道を立てて考え、説明する問題では、正答率が県の平均を上回っている。 ●証明で用いられている三角形の合同条件を書く問題では、7割近くが正答しているが、県の平均よりは低い。	・三角形の合同証明のように論理的に説明するような問題では、まず合同条件を確定させてから、記述するように指導している。記述自体が苦手な生徒もいるため、問題を多く解き、個別に指導していきたい。
C 関数	平均正答率は市の平均を下回っている。 ○目標の300kgを達成するまでの日数を、グラフ、式、表を用いて求める問題がよくできている。 ●変化の割合が2である1次関数の関係を表した表を選ぶ問題に課題が見られる。 ●与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取る問題に課題が見られる。	・変化の割合を、式からだけでなく、グラフからも確実に読み取れるようにする。 ・表、グラフ、式を関連付けて考えることができるようにする。
D データの活用	平均正答率は市の平均を上回っている。 ○容器のふたを投げたときに下向きになる確率を選ぶ問題がよくできている。 ○よく回るコマをヒストグラムの特徴を基に選び、選んだ理由を説明する問題が県の平均を上回っている。 ○箱ひげ図から分布の特徴を読み取る問題がよくできている。 ●よく回るコマをヒストグラムの特徴を基に選び、選んだ理由を説明する問題が6割の生徒が不正解である。	・確率では、サイコロを投げる実験で、表計算ソフトを利用してグラフを作成し、グラフが収束する様子を確認している。今後も実験を通して、日常生活における関わりを体感させたい。 ・今後も箱ひげ図を確実に書けるようにすることで、箱ひげ図の特徴を理解したり、読み取りができたりするようにする。 ・ヒストグラムの特徴を読み取り、自分の考えを説明できるようにする。

宇都宮市立鬼怒中学校第3学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	42.6	43.8	41.9
	「粒子」を柱とする領域	55.7	51.8	50.9
	「生命」を柱とする領域	57.1	59.6	57.9
	「地球」を柱とする領域	44.5	45.9	44.3
観点	知識・技能	48.9	48.8	46.1
	思考・判断・表現	51.5	51.9	51.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均よりやや低い。 ○市の平均と比べ、選択式の問題は正答率が高い。日常生活の中から考える問題はよく出来ている。 ●市の平均と比べ、短答式や記述式など、文章で答える問題に関しては、正答率が低く、記述式になると無回答の割合も多くなる。考察の妥当性を考える問題は正答率が低い。	・実験等で確認できた結果から、考察を自分の言葉で文章に表し、模範解答と比較することに重点を置く。 ・記述式の問題演習を行う。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より高い。 ○市の平均と比べ、水の電気分解、状態変化と温度、発熱吸熱反応の正答率が高い。 ●市の平均と比べ、化学変化とエネルギーの理解度は低い。他の分野が関連した複合問題に苦手意識がある。	・実験のまとめや単元の振り返りなどの節目で単元を横断するような話や問題演習に取り組む。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より低い。 ○市の平均と比べ、動物の体のつくり、実験の条件制御については理解度が高い。 ●市の平均と比べ、微生物の名称、生物の分類の考察、教科書に記載されていない初見の実験の正答率は低い。	・なるべく本物に触れさせ、実験・観察を通して知識を増やしていく。本物を見ることが難しい場合はICTなどを活用し、ただ暗記するだけにならないように指導する。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。 ○市の平均と比べ、天気について知識、観測データの読み取りの正答率が高い。岩石に関する知識、地層の傾きの分析は市の平均とほぼ同じである。 ●市の平均と比べ、グラフから天気の変化を分析すること、断層から大地の変化を分析することに対しての正答率は低い。	・グラフや図から読み取るような学習を意図的に取り入れ、それぞれの要素が何を表すのかを示し、考えさせる。

宇都宮市立鬼怒中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○PCやタブレットなどのICT機器の使用頻度では、ほぼ毎日使用していると回答する生徒が多く、全国と比較しても非常に使用頻度が高いことが分かった。授業中なども含め、分からないことがあったらすぐに自分で調べる習慣を身に付けるように指導しているので、今後も自分で調べたり、自分で解決したりする力の育成に取り組んでいきたい。

○「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」という質問に対し、肯定的な回答が全国平均よりも7ポイントほど高かった。クラスの一員として、それぞれが意見をもちながら、協調性をもって取り組んでいると感じ生徒が多いことが分かった。今後も生徒のよさを生かしながら、生徒ひとり一人が活躍できる機会をもてるような学級経営を心掛けていきたい。

●「自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを創り出す活動を行ってきましたか」という質問では、肯定的な回答が全国の平均よりも4ポイント下回った。ただ創作活動をするだけでなく、学んだことをどう生かすかという観点をもって、各教科で取り組んでいきたい。

●「地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツを教えてもらうことはありますか」という質問では、肯定的な回答が県や全国の平均を若干下回った。今後は社会体験学習や、職業人講話などを地域の方に協力をしていただくことで、生徒たちがより地域を身近に感じられるようにしていきたい。

宇都宮市立鬼怒中学校（第3学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・授業でパソコンを利用する機会を増やす。 ・パソコンを扱う技術の習得。	・調べ学習など、情報収集やまとめ作業でパソコンを利用する。また、その際に使い方等の指導を行う。 ・問題演習等をパソコンのソフトを使って行い、家庭でも学習に取り組みやすいようにする。	・「本やインターネットを利用して勉強に関する情報を得ている」という質問に対し、市や県の平均よりもやや低かった。しかし、昨年度と比較した際に肯定的なポイントが上がっていた。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか」という質問について、肯定的な回答が全国の平均よりも10ポイント以上高かった。ただ、国語の学習調査の結果から、書く力や情報の扱いについての力が乏しかったので、今後も重点的に読解力の育成を図っていきたい。	・「読解力の向上」を目指し、文章を読み取る力、書く力、論理的に考える力の育成。	・朝の活動を利用して新聞記事を読んで質問に答える取り組みを週に1回実施している。その際に、時事について触れたり、漢字の読みや意味について確認したりして、文字に触れる機会を増やしていく。 ・各教科において「読解力の向上」を意識した授業の取組や、研究授業の実施を行っている。 ・学校園全体として、読み書きを中心に「読解力の向上」に取り組んでもらうよう小学校にも協力を仰いでいく。